

1月18日のウクライナ情報

安斎育郎

①キューバが BRICS に加盟:新しい経済時代の幕開けとそれが世界経済にもたらす意味(2025年1月15日)

キューバが最近 BRICS 同盟に加盟したことは、世界経済のダイナミクスにおける画期的な変化です。何十年もの間、キューバは経済制裁によって孤立していましたが、今や BRICS の準加盟国として新しい時代へと足を踏み入れています。この戦略的な動きは、世界貿易の様相を一変させ、南半球の勢力バランスを変える可能性があります。

このビデオでは、キューバの BRICS 加盟がなぜそれほど画期的なのかを詳しく説明します。新しい市場や資源へのアクセスから貿易における米ドルの回避まで、この同盟はキューバにとって大きな経済的変革を約束します。キューバ経済への直接的な利益、世界貿易におけるキューバの役割、そしてそれが特にラテンアメリカとカリブ海地域の地政学的状況にどのような影響を与えるかを探ります。

<https://youtu.be/ars3nYTdIqI>



<https://youtu.be/ars3nYTdIqI>

② 北朝鮮人捕虜という映像(2025年1月12日)

※投稿者コメント:ロシア軍にアジア系の顔の人がいたら、とりあえず北朝鮮兵だって言っておけばほとんどの日本人は脊髄反射で騙してくれるから楽な仕事だよな

ほとんどの人がロシア連邦には 24 の共和国がある超多民族国家ってことを知らないだろうし、もっと細かく分類すると 89 ある

今回ゼレンスキーにジュネーブ条約違反されて晒されたトウヴァの人も、ブリヤートやタタールスタンの人も祖国のために戦ってるのに勝手に北朝鮮兵扱いされて本当にかわいそう

彼らが話しているところを映さない理由は、彼らがトウバのロシア人で、ウクライナ人とロシア語で

話しているからです。

だから彼らはただ韓国人であるふりをしているだけです…恥ずかしいです。

彼らが北朝鮮人だったら、彼らが韓国語で話して認めている字幕付きのビデオを見せるはずです。

<https://x.com/i/status/1878369801711878377>



<https://x.com/MyLordBebo/status/1878369801711878377>

③ 疲労や消耗から「麻薬、アルコール使用」とウクライナ投降兵(2025年1月14日)

クリスマス・イブにロシアに投降した宇国境警備隊員は、「ウクライナ兵士は疲労と精神的な消耗から、麻薬やアルコールを使っているという話を聞いた」と主張した。



<https://sputniknews.jp/20250114/19497734.html>

〈動画〉

<https://twitter.com/i/status/1879122102382706817>



④ 日本とドイツは米国に反論することもできない=ラブロフ外相(2025年1月14日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、2024年のロシア外交を総括する記者会見で国連安全保障理事会の改革についてコメントし、このように述べた。

ラブロ夫外相によると、安保理常任理事国候補のうち、ドイツと日本は世界政治において独自の発言力を持たず、米国の言いなりになっているという。



〈動画〉

<https://twitter.com/i/status/1879106398501658879>



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADQ8QGQABEtFZ4hKlwA-gDOMFIQ>

⑤米国は「トルコ・ストリーム」の無力化狙う＝ラブロフ外相(2025年1月14日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は14日、毎年恒例の年次記者会見のなかで、天然ガスパイプライン「トルコ・ストリーム」について、米国がウクライナのテロ攻撃を看過していると非難した。

「米国はエネルギーをはじめ、いかなる分野でもライバルを必要としていない。彼らは躊躇もなく、ノルドストリームに続きトルコストリームも無効化するためウクライナ人をけしかけ、EUのエネルギー基盤を破壊するテロ活動を認めている」

ウクライナは11日、黒海に面した露南部アナパ近郊のトルコ・ストリーム関連施設を無人機で攻撃していた。

トルコ・ストリームは、黒海とトルコを経由して欧州に露産ガスを供給している。輸出先はトルコのほか、ルーマニア、北マケドニア、ハンガリー、セルビア、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ギリシャなどとなっている。



https://sputniknews.jp/20250114/19496527.html?rcmd_alg=collaboration2
〈関連情報〉

ウクライナによる天然ガス・パイプライン「トルコ・ストリーム」の攻撃は経済テロ＝専門家 (2025年1月14日)

ウクライナは黒海に面したロシアの町、アナパ近郊にあるパイpline「トルコ・ストリーム」の圧縮機基地を無人機で攻撃したが、これは経済テロに他ならない。

ウクライナ軍は11日、多数のドローンでパイplineの関連施設を攻撃した。ロシア側は全てのドローンを撃墜したものの、破片の落下により地上では火災が発生した。

トルコの政治学者ジェイダ・カラム氏はスポートニク通信の取材に対し、米国とウクライナによる経済テロの脅威を指摘した。

「我々は現在、バイデン政権による新たな制裁と、ガス・パイplineに対するゼレンスキ体制の攻

撃を目の当たりにしています。欧洲のエネルギー・システムに対する攻撃は、攻撃と制裁の両面から進行中です。これはまさに経済テロそのものです。このようにして、他国の政治主権を侵害し、他国の政治的決定を妨げようとしているのです」

今回のテロ攻撃でウクライナはトルコとロシアの関係を破壊し、トルコ国民とトルコのエネルギー産業を「罰しようとしている」と専門家は分析している。

パイプライン「トルコ・ストリーム」(2020年に運用開始)は、トルコを経由して欧洲にロシア産ガスを供給している。具体的にはトルコ、ルーマニア、北マケドニア、ハンガリー、セルビア、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ギリシャがこのパイプラインでロシアからガスを輸入している。

なお、先にウクライナが停止したパイプラインでは、スロバキア、モルドバ(沿ドニエストル共和国)、オーストリア、イタリア、チェコがロシアからガスを輸入していた。



<https://sputniknews.jp/20250114/60-19495216.html>

⑥NATO事務総長、ロシアに勝てない理由を分析(2025年1月14日)

ロシアはNATOよりも効率的に防衛予算を使用しており、さらなる対抗措置を講じるには身を切る覚悟を持たなくてはならない。

NATOのルッテ事務総長は欧洲議会の議員らと討論した中で、ロシアの強さを認めた。事務総長によると、ロシアの国防費はNATOと比べて10分の1に過ぎないものの、この予算を何倍も効果的に使用しているという。

「ロシアの数字と比較するとき、(ロシアでは)同じ金でもっと多くのものが買えることを忘れないでください。ロシアでは我々ほど給料が高くなく、官僚制度もないからです。ロシアはより迅速に行動し、実際に戦争経済を創造したのです」

事務総長によると、ロシアはNATOの全加盟国が1年かけて製造する武器をたった3ヶ月で用意できるという。

事務総長は防衛費の増額を要求しており、国防に国内総生産(GDP)の2%を支出するだけでは「絶対に不十分」と述べた。

ロシアは2024年、国防費にGDPの6.3%を費やした。一方、NATO加盟国の多くで国防費はGDPの2%以下に留まっている。2023年にNATOの主要国で2%を超えたのは米国(3.4%)、英国(2.3%)、フランス(2.1%)、ポーランド(3.8%)となっている。



https://sputniknews.jp/20250114/nato-19494929.html?rcmd_alg=collaboration2

⑦ プーチン大統領の大勝利:米国はウクライナの降伏は不可避であると公式に宣言(2025年1月15日)

ロシア軍の勝利の攻勢は前線のすべての主要方面で続いている。ウクライナ軍とNATO軍にとつて残念なことに、ロシア軍の攻撃部隊は過去24時間で戦場でもう一つの大きな成功を収めた。特に、数分前にロシア連邦国防省は、「センター」と呼ばれる部隊グループの部隊が「ポクロフスク」南西の「ペシャノエ」集落を解放したと公式に発表した。

<https://youtu.be/v9zwYhzTEag>



<https://www.youtube.com/watch?v=v9zwYhzTEag>

⑧ ラリー・ジョンソンが暴露:ウクライナは壊滅状態、100万人以上の死者! プーチンの衝撃的な軍事行動!(2025年1月16日)

<https://youtu.be/b0uysUWofU4>



※安斎注:上の字幕の「彼」というのはゼレンスキーのことです。徴兵年齢を18歳まで下げると言ったアメリカの要求は、ゼレンスキーと国民に間に対立を先鋭化させるためということです。

<https://www.youtube.com/watch?v=b0uysUWofU4>

⑨ウクライナのロシア軍への100万ドルの賄賂が壊滅的な攻撃で打ち碎かれ、キエフは莫大な損失を被る！(2025年1月16日)

現代戦争の劇的な展開として、ウクライナの軍事情報機関はロシア軍に100万ドルの賄賂を贈り、ゴロフカ近郊の陣地を放棄させようとした。しかし、ロシアのFSB(ロシア連邦保安庁)がこの計画を暴露し、作戦は壊滅的な反撃に転じた。ロシア軍が賄賂の金を軍事活動の原動力として先制攻撃を開始したため、ウクライナ軍は大きな損失を被った。緊張に拍車をかけたのは、FSBがロシアのヤロスラブリ地域での化学攻撃を含むウクライナの陰謀を阻止したことだった。このスパイ活動、欺瞞、そして高い利害を伴う影の戦争は、ウクライナとロシアの紛争の進化する性質を強調している。

<https://youtu.be/eUT-8KDPnV4>



<https://www.youtube.com/watch?v=eUT-8KDPnV4>

⑩完全な崩壊を告げる大スキャンダル(2025年1月16日)

ウクラインスカ・プラウダ紙は、ウクライナで勃発した空軍要員の地上軍への大量異動に関するスキヤンダルに関する記事を掲載した。このエピソードでは、空軍の上級将校の発言、およびウクライナ参

謀本部、ウクライナ空軍、ゼレンスキーオバマ大統領の声明を取り上げます。

<https://youtu.be/DbBWNg6-4fQ>



<https://www.youtube.com/watch?v=DbBWNg6-4fQ>

⑪トランプはウクライナ戦争を速やかに止められるか、ウクライナに残された3つのシナリオ(東洋経済、2025年1月17日)

いよいよ2025年が始まり、1月20日にアメリカはトランプ政権へ移行する。トランプ新大統領は、3年続くウクライナ戦争をロシアのプーチン大統領と停戦させるつもりである。

トランプ政権は前回の政権のときと同様、「アメリカ・ファースト」を打ち出している。その目玉の1つがこの停戦である。

■ロシア「新型爆弾」の衝撃

このアメリカ第一主義がどこまで功を奏するかは、ウクライナ戦争を停戦できるかどうかで試されるといえる。しかし、アメリカおよび西欧は、これまでとちがって世界平和を命令する立場にはない。自国の利益を守るだけで精一杯といえる。

ロシアへの制裁や外国への関税の負荷は、自国経済に不利に働くことはあっても、けっして停戦に有利に働くものでないことは、すでに証明されている。圧力を受けるロシアは、むしろますます勢いを得ているように見える。

30兆円を超すNATO(北大西洋条約機構)諸国の支援にもかかわらず、当初見えていたウクライナの勝利は感じられない。むしろ敗北の色濃厚とさえ言える。停戦ではなく、敗戦という言葉もちらほら見受けられる。

とりわけ2024年11月の世界戦争勃発の危機を変えたのが、ロシアの新兵器「オレシュニク」だった。極超音速中距離ミサイルとされるオレシュニクは、ウクライナ・ドニプロの工場に落下したが、この新型爆弾は1945年の原爆のときと同様、世界に波紋を呼んだ。

それは、この爆弾がいったい何であるかということがわからなかったからだ。大陸間弾道弾とみられたが、その速度、その威力において、まったく理解不能の爆弾だったのである。

知らないということは「作れない」ということであり、それゆえ知らない爆弾を持つ国との戦いは恐怖そのものであるといってよい。

NATOの軍事介入による世界戦争という考えは、この爆弾の威力の前で色あせてしまった。アメ

リカ軍も含め、この新型爆弾になすすべがなかった。平和交渉を進めるしかなくなつたのである。

また、冬将軍到来の中で天然ガスの問題が、とくに東欧諸国で問題になり始めたことも、平和交渉を促進させることになった。



2025年1月20日、再びトランプ氏がホワイトハウスに舞い戻ってくる。彼は公約の中にあったウクライナ戦争の早期停戦を実現させられるか（写真・2024 Bloomberg Finance LP）（東洋経済オンライン）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/bd3bb53ebbabf07ef5fb78b1b419307d8c71b69/images/000>